

# 仮説と検証08

ガリレオ、パスツール、シェルドレイク、いずれも間違っただけを否定することによって、新しい知見が得られる、という論法は印象的でしたね！

ガリレオ、パスツール、シェルドレイクは、あえて間違っただけを否定して検証を行って、新しい知見を得たという方法で、規程の常識を打ちこわして新たな発見につなげている。しっかりと論理的なプロセスを踏むことで常識をくつ

先入観の恐ろしさについて学んだ。センノルヴェイスの最期を知らなかった時、認め難い結果や出来事と直面した際、気も荒くなるのはなく、一度立ち止まって俯瞰的に考えたいと思った。

でも社会に受け入れられない意見を表して、なにか大切なことを正しく伝えても偏見や元の価値観で拒否されておらず、科学を学ぶ立場として根拠を理解しつづける姿勢が重要だと感じた。

論理的な話と非論理的な話の両方、納得できやしないという部分も今日の授業で一番印象に残りました。今日の学生生活の中で話し合いはよくありますが、実際に感情トランスが起きているような場合は、相手を納得させることが多かったです。自分自身も納得できないことが多かったです。

そして、テレビのアンケートの結果について興味をもって見ることができた。45%という数字は結構おどろかされたから、逃げる1と書いて本当にテレビの存在を感じた。

シェルドレイクの実験も、「信じる」「信じない」ではなく、科学として議論したいものですね！

今日一番印象に残った事は、道具の進歩と科学の向上はつながっていることですね。将来どんな道具が出てくるか考えるととてもワクワク

徹夜明けの英研究の年代が19世紀近いという問いの答えが個人的に面白くて納得はしにくい。いろんな研究にはそれぞれのバックグラウンドがあるのだと思うと考えるとワクワクしてきます。

今日一番おどろかしたのは支持した仮説を肯定するのではなく、否定したい仮説を検証、否定するという(新しい科学のABC)が初めてで興味深かったです。

事物事に対して正しい仮説を立てるのはどうもかたがと「果敢」あて間違っただけを否定して「突如破片」をひけるのはおもしろいと思った。

思い込み、先入観などから自由でない状態で議論することは、ときどき、虚しく感じます。「非論理的な人を論理的に説得できるか」は、人類全体の課題とも言えるのではないのでしょうか？

どこぞの県知事にかかわる一連の報道を見ると残念です。

納得がとれずおどろかされた。また、論理的な説明をしてもらえなかったことが、おどろかす。センノルヴェイスの例で、自分で似た経験があり、トに新しいことを信じてもらうのは難しいと感じた。論理的な説明は他に納得の上で進めたい。だから、おどろかされた。人の話し合いは難しいと感じた。

自分の考え方を理解してもらうことは難しいと感じることが多い。そういえば、他人の思考を覆すことの難しさに改めて納得した。

今日の授業ではシェルドレイクの実験が一番印象的だった。なぜなら、今朝「論理的な現象」という思い込みはしばらくあったから。そもそも科学を信じている人はその方がいいと嫌って、試す前にあり得ないと思ってしまうという決めつけが私の中にあったことに気づいた。それ、心理学の統計の授業で学んだ二項検定がこういう話にもつながること

19世紀の天文学が電話の存在技術に使われていること(知)。科学が私たちの生活に直結しているのだと思います。

技術が科学の発展をもたらす、という話をしました。私はワクワクするどころか、とても怖いんです。缶詰の例は、科学が技術を発展させた例ですね！